「今求められる学校図書館」～子どもたちの確かな育ちを願って～

◆はじめに、

今年の講師のお一人は月刊誌「ぱっちわーく」の編集を長年手がけてこられた梅本氏で、たまたま活動に一区切りつけられると公表された時期に重なった。もうお一人はこれまで「石川・学校図書館を考える会」の世話人であり、「白山市・野々市市の学校図書館を考える会（すばるの会）」の活動の中心、かつ教員という立場で学校図書館を応援し続けて下さり昨年度末に定年退職された中條氏にお願いした。さらに今年は「会報第 70 号」を迎えた節目の年にあたり、それぞれの活動における経緯や足跡を振り返りながら、これからの学校図書館を考える機会となることを願って開催された。また、参加者の多くが司書であることから、専門職、一人職ならではの悩み・困りごとの解決に少しでも役立ててもらえるようにと、これまでにない研修として、学校・公共図書館で働く司書自らがプレゼンする「仕事のコツ・工夫」を持ち寄った「フラッシュ・プレゼンコーナー」を設けることとなった。

◆開会の挨拶　　野々市市立富陽小学校教頭　　中野　淳子　氏

本研修会は、子どもたちの確かな育ちを願って、司書・教諭・市民が共に学び合う機会であること、ひとつでも多くのヒントを持ち帰って、明日からの実践に活かしていただけたら幸いであることなどが述べられた。

◆「石川・学校図書館を考える会」代表の挨拶　　下崎　睦子　氏

はじめに、なぜ、学校図書館に司書が必要なのか、どうすれば、どの学校にも「専門・専任・正規の司書」が配置されるようになるのか、我が子だけ、我が子の学校だけがよければ良いのか、いや、そうではなく世の中全体がより良くなければ我が子の幸せも守れないのだろうなど、一市民としての願いが「石川・学校図書館を考える会」を立ちあげるきっかけであったことが語られた。また、会報作成に至っては、毎年各地域からの報告を受け、一校、また一校と学校司書の配置が増え、雇用の改善、活動の充実が図られるごとに喜びや期待を膨らませてきたこと、自らも全国各地の研修会に参加し学校図書館・学校現場への知識や理解を深めてこられたこと、市民・教員・司書が互いに資質向上し合える場として毎年研修会を設けることに尽力されてきたことなどを想い出を振り返るように静かに、熱くお話しいただいた。

最後に、新ホームページ開催のお知らせと同時に、今回の「会報第 70 号」を以てウェブサイト上での公開に切り替わることと、これまでの活動を礎に、これからも初心を忘れずに、子どもたちの確かな育ちを願って、本研修会「今求められる学校図書館」に寄せる期待が述べられた。

◆全国の状況、学校図書館の現場を踏まえて　　『ぱっちわーく』事務局長　　梅本　恵　氏

月刊誌「ぱっちわーく」には、「さまざまな模様の布を繋いで一つの作品を作り上げるパッチワークのように、一人ひとりの声や情報をつないでいきたい」という願いが込められている。93 年 5 月の創刊より、全国から寄せられる学校図書館の「人」をめぐる動き、活動報告、新聞記事など掲載情報が満載のため毎月発行する運びとなった。「全国の学校図書館に人を！の夢と運動をつなぐ情報交流紙」として、常に「何のために、なぜ図書館に人が必要なのか」という初心にかえることを大切に日々活動している。

「学校図書館法の一部を改正する法律」公布にあたり、学校司書（第 6 条）にある「専ら学校図書館の職務に従事する職員」という一文に、もっと学校司書の専門性を強調する文言として「学校図書館の運営の改善及び向上を図り」という一文をなんとか追記してもらうことに尽力した。また、

附則.2 にある「学校司書としての資格の在り方、その養成の在り方について検討を行い」に関しては、現在有識者による協議会を進めており、「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」の議事録は文科省のホームページでも閲覧することができる。今年度実施された「学校図書館の現状に関する調査」では、学校司書の配置されている学校数だけでなく、勤務形態（常勤職員数の内訳）を国が詳細に調査したことに大きな意味がある。

また、「専門・専任・正規の学校司書の配置」に向けて今後の課題として、司書教諭との役割分担など両者をセットで考えていく必要がある。司書教諭は、機能する学校図書館を活用した教育活動の実践を計画的に推進すること、学校司書は、図書館コレクションを構成・機能させ、充実したサービスを提供することが大切な役目である。今回の法改正を受け、改めて司書教諭と学校司書の関係を検討し条件整備していくことが大切である。

学校図書館職員の現状について、平成 26 年度の調査では司書教諭の発令と学校司書の配置がともにある学校は全体の 40%。小中学校の学校司書配置率は 53%を超えているが、そのうち常勤職員は 1 割に過ぎない。学校司書の民間委託を行っている教育委員会は 3.6%（64 自治体）であるが、学校司書が教職員でないと、職員会議や研修会へ参加することができず、組織的な図書館教育に専門的立場で参画することは難しくなる。学校司書は読書支援だけではなく、学校図書館を教育活動に位置付けていく重要な役割を担っている。また公的に専門性の質が保障される機会が与えられることも大事である。民間委託制度は法令を遵守している場合であっても、責任の所在が曖昧、継続性や学校内外との連携が困難であることから学校現場にはなじまない。

さいごに、図書館学、教育学という学問分野の域を超え、「だから、図書館が大切なんだ！」という発信を教育学、学校現場から期待したい。子どもたちだけでなく、大人になっても私たちは日々悩み、これまでも、これからも、常に悩み続ける中で、そこに図書館があり、「図書館へ立ち寄ってみよう」と試みる、それが大事なのではないかと思う。

◆県内司書 11 名による「すぐに役立つ司書の技！」　2 分間フラッシュ★プレゼン

①白山市（小学校）･･･「読書のめあてに合わせた別置」
②七尾市（小学校）･･･「誕生日のお楽しみ」
③小松市（小学校）･･･「お楽しみによる読書意欲の刺激」
④白山市（小学校）･･･「『ニャンコ探偵からの挑戦状！』利用指導の後に置いてみませんか？」
⑤野々市市（小学校）･･･「授業における資料提供」
⑥野々市市（小学校）･･･「仕事を効率よくするために･･･成果はみんなでシェア！」
⑦白山市（中学校）･･･「図書館 De 朝読書　～不読者↓＆授業関連ブックトーク～」
⑧金沢市（小学校）･･･「課題をより深く理解するためのブックトーク」
⑨白山市（小学校）･･･「授業での活用～楽しみになる！事前打ち合わせと PR が大切～」
⑩金沢市（中学校）･･･「授業での活用」
⑪松任図書館学校支援センター･･･「ネットワークを生かした学校支援」

◆～石川県の学校現場より～　　元白山市蕪城小学校長　　中條　敏江　氏

はじめに、これまでの図書館教育の足跡として、2003 年頃から「読みたい！知りたい！ゆっくりしたい！」をモットーに「学ぶ力」を身に付けさせるために、学校司書と司書教諭が協働で情報教育を行ってきた。今日における「情報教育」とは、言語、映像、実物等多くの情報を集め、それらをまとめ、伝えていく力を付けさせることであるが、例えば「索引」はインターネットでの「キーワード検索」に似ていて便利であるが、「目次」はもっと重要である。「大概念→中概念→小概念」と、情報を塊でとらえる眼、情報の整理創造する力を身につけるためには、やはり「図書で調べる」ということが情報活用の基礎として大切である。

司書教諭は年間計画全ての教科を6年間の見通しをもってコーディネートしていくこと、学校司書は情報のプロとして様々なニーズに個別にサービスしていくことや他校・公共施設、ボランティアとの窓口として対応していくことが重要な役割である。私達は校内の情報担当者として、学校司書や司書教諭だけが図書館教育を行うのではなく、「教育課程に組み込むことによって、だれでも、簡単に『図書館メディアを活用した授業』ができるシステムを構築すること」を目指してきた。（ホームページで公開していた時期もある＊現在は閉鎖）

2008年度以降、OECD・PISA学力調査で求められる力を基に読解力を支える基礎の一つとして「幅広い読み物に触れる機会を学習活動に取り入れること」を研究してきた。教科書が変わった2013年以降は、学校における読書指導として、読書は趣味ではなく、漢字・九九のように基礎基本ろして定着させ、歯磨きと同じように習慣化させ、水泳指導のようにスキルアップさせていくことが大切であることを推奨し「言語能力の育成をめざす図書館教育」を追究してきた。また、国語科の単元における読書指導「並行読書①・②」に力を入れていくことによる「精読」から「多読」への促しは、初見の文章を読み解く読解力・思考力・表現力を身に付けることにつながり、社会に出てから真に求められる力となる。昨年度以降、さらに教科書の単元のねらいや配列が変わり、情報教育の観点から、これまで以上に教科書をしっかり分析することが重要となってきている。本、インタビュー、観察、パソコンなど様々なメディアの中で、どの時期にどんな指導が必要かを正しく理解することが大切である。

さいごに、今年の春、4年生以上の児童を対象にプレゼンした「図書館オリエンテーション」を紹介。「20年後は今ある職業の半分も存在しない？」を導入に、変化の激しい社会の中で、なぜ読む力、自分で課題解決していく力を身に付けることが大切なのかを楽しく、わかりやすく解説した授業を披露。

◆研修を終えての感想

今回の研修会に参加して一番に感じたことは「温故知新」。とかく私達は目先の事だけに囚われて過ごしてしまいがちだが、学校司書として働くことができる今日に至るまで、どれだけ多くの、どれだけ見えない力によって支えられてきたのかということを知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。古きをたずねて新しきを知ることの意味の重さを改めて実感する会となった。